

# 蓬萊町だより

日会部 2014年7月 第6号  
蓬萊町文化 3月 第14号  
発行 者 蓮文  
編集 者 平成

## 本郷台に咲いた焼跡文化の花(その二)

日本随筆家協会々員 上野 静

「ナナ子よ！何事も辛抱が大切だ。苦しみに堪え抜き芸域を拡げることだ。さすれば結果は必ず出る。況してナナ子はTOPスターだ。やがて光り輝く春はキツと来る」と私は心の中で彼女にファンとしてのステートメントを発信したのだった。

一座の芝居は一月程度のロングランだった。ドサ回りを終わって、ここ本郷、中村座に姿を見せるのは一年に二、三回の間隔だった。

ファンは長い、長い時空を待ちに待ち、漸やくその日が来ると喜び勇んで空き家になっていた中村座に駆けつけるのだった。そしてみんなで掃除、片づけ、整理など、開演の準備を手伝うのが習慣になっていた。

無論、全員がボランティアで一生懸命に働くのだった。

その間、副座長は若い女優二、三名を伴って高々とクラリネットを吹奏し、辻々で「こ鼠貞の皆さま、お待たせしました。」

再び、帰って参りました。明日より開演いたしますので、どうぞや、ご来場のほどを伏してお願致します」

と一場の口上を述べ、巷々を宣伝、回って行った。

宣伝隊の行く先々では熱烈なファンが甚に出て喜びの拍手で迎え入れるのだった。

何時もながらの初日は超満員で観客は場外に溢れていた。

かくて本郷台の一角から中村座が威勢よく、赤々と焼跡文化の第一灯を点火したのである。ファンは三、四〇代を中心とし中には六、七〇代のお婆さん連中もかなりいたようだった。

遠くは湯島、水道橋、小石川、巣鴨辺りから熱心なファンが駆けつけていくということだった。かくて中村座は本郷文化の先駆けとして多数ファンの護送船団に守られて華麗に花開き盛況を続けて行った。

観客の中には娯楽の少ない当時のことで大学教授や小中学の教師や一般サラリーマンなどのインテリ階級も多数が観劇、中村座は焼跡文化のシンボルともなり、大きな存在感を明らかにしたのである。

雨の日も風の日も多数のファンが引きも切らず、駆けつけ、犇めき合って大人り満員の盛況が続くのだった。

この頃、中村座の焼跡文化の高揚と盛大な人氣がモチベーションとなり、戦渦に会って失った長い歴史を誇った本郷座(旧春木座、本

郷警察署や本郷消防署前の春木町大通りの中央右側に存在していた)の復活、再建の声が旧本郷座のファンの中から燃え上がった。

本郷座は戦前、神田、駿河台、お茶の水、本郷地区唯一の映画館としてインテリ階級から絶大な支援を受けて本郷文化を植えつけた華々しい歴史に輝く有名館だった。

しかし、春木町周辺の焼跡の復興が遅れ、第三セクターの各リーダー格や最も熱意を示した文化人その他旧来のファン達の結束が困難で資金のメドが付かぬまま本郷座の文芸ルネッサンスは曙光も見えず、不発に終わってしまった。

早くから本郷台の香り豊かな文化の上壤を見透かし、逸早く、手を挙げた中村座の基盤は強固で揺るがなかった。

無論、中村座としても本郷座にライバル意識はなく共に文芸復興に活動する同志として再建の不発を心から惜しんだ。

かくて一座はファンと共に焼跡文化の確立に邁進し、中村座は愈々成熟期の本番に入って行ったのである。「好事魔多し」というか……そんな全盛期を迎えた中村座が突如、思いがけないハプニングに見舞われたのである。

卒然として大家(地主)が疎開先から引き揚げ、小屋の退去を言い渡したからである。

この情報を聞きつけたファンは中村座に殺到、座長を中心にファン幹部(自選)と協議したが対応策は全くなかった。

中村座の非常時を知ると場内ファンは寂として声なく傷々しいまでの雰囲気包まれ、誰も彼も悲しみの表情に変わった。

ひと先、二百名に及ぶ署名運動で再建を企画、大家（地主）に懇願したが否決されてしまった。代替地の問題も真剣に検討されたが資金のメドが立たず、ファンも一座も、なす術を失った。ファンは各自、それぞれの人生の生き甲斐の終焉を迎えたように嘆き悲しんだ。

中村座の座長もファンが狂気のように奔走、アノ手、コノ手を使った万策も尽き、前途の見込み空しく、ここに「万事休矣」と断定、本郷、中村座の完全閉鎖を表明した。

殺陣に強いが情愛に優しい座長は溢れる涙にくれながら、最終公演は謝恩サーピスの場としてファン一般に開放、自ら書き下ろしたシナリオで演出、最後を締め括ることを宣した。

これまで中村座を雨の日も風の日も駆けつけて支えてくれた愛するファン！

そして中村座が閉鎖に当たり、東奔西走、血の滲むような再建運動に立ち回った熱烈なファンの声援に心から感謝、その返礼記念公演である。

返礼公演は最後を惜しむファンの大観衆で観客席は立錐の余地なく埋まった。

公演は中村座の各座員が一人または二、三名で中村座誕生から終盤を迎えるまでに辿った

道程を思い出し、或いは喜び、或いは悲しんだフィクションドラマの一齣を演出することになった。

座長と副座長は巖流島の決闘で武蔵と小次郎の決死の大立ち回りの演劇だった。

洗練された二人の殺陣は殺気漲ぎり、血風生臭く、あたりを拂って凄絶だった。

観客も一座を代表する二大役者の活劇に目を凝らし、心から満足、歓呼と拍手と絶叫で全座を揺がし、サヨナラ公演に相応しいダイナミックなドラマだった。

最後のトリを努め、有終の美を飾ったのはやはり憧れのスター中村ナナ子だった。

ナナ子の中村座女優のシンボルに相応しく、観客席の背後から中央花道を颯爽として舞台に向かい、宝塚特有のライン・ダンスの中で唄う「ゲーテ・ダムール」の一節を力感溢れる美しい音声で唄いながら登場、詰めかけた満座のファンは陶然として恍惚、見惚るばかりだった。舞台上がると数名の若武者を相手に激しいアクションと得意の白刃で千人斬りの殺気だった殺陣を披露、素晴らしい修羅場を演出、場内の大観衆は絶賛の嵐の拍手と絶叫で沸き立った。幾度もアンコールに応えて何回も何回も手を振り、拍手、喝采の鳴り止まぬ中を何時もの清々しい笑顔を見せて華やかにスクリーンの中に消えて行った。

凡ての公演を終わると座長中村八重子を筆頭に副座長以下チビ役に至る十数名の役者達が

ステージに整列、最後の顔見せだった。

再び大観衆の嵐の拍手と絶叫に全座は湧き滾るのだった。

やがて中央に立っていた座長がこれまでのファンの熱烈な後援に謝意を表明、同時に閉幕に至った実情を述べ、口上を終わるとステージの一灯のみを残し、場内総ての灯火を消滅、暗黒の中で観客、座員が一体になり、アコーションが奏でる「蛍の光」を絶唱した。

“ 蛍の光 窓の 雪…… ”

さらば別れん いざさらば 別れを惜しむ哀調の言葉をアコーションの奏でる悲しげなリズムに此処、彼処から啜り泣く微かな声の流れで場内は沈痛な面持に落ち込んだ。

やがて、お別れのセレモニーの総てを終わるとステージの幕が静々と降りてきた。

中央に立つ座長を始め、座員一同とファンは一体になり、各自お互いが手を振ったり、肩を抱いたりして永遠の別離を惜しみ、悲しんだ。スターナナ子は頂垂れて秘やかに嗚咽、感慨無量の面持だった。

青春、最中の私は憧れのスターナナ子のアノ華麗な舞台姿がタツタ、今、この瞬間から消えてゆくのに気付くと、思わず「我」を忘れて、舞台に駆け上がり、彼女と永遠の別離で握手を交わしたい願望と哀惜の情愛が交錯、胸の中を突ツ走るのだった。

かくして七年間に亘って光り輝いた中村座の  
焼跡文化の灯火はフアンの悲しみの中に永遠  
に消え去った。

しかし、後世の史家は譬え、中村座は本郷の  
灰燼の中で潰滅したと雖もその多数の熱烈な  
フアンの声援と一座の心血を注いで培かった  
文芸ルネッサンスは永遠に不滅である……と  
書き残すに違いない。

今日、本郷は隅外、漱石を始め多数の文豪  
のマチとして広く知れ渡り、本郷、下谷を中  
心とした下町住民は「温故知新」の心を柱に  
各種のフェスティバルやイベントなどを行い、  
文化のマチの活性化に力を込めて努めている。  
今日、中村座が残した文芸思汐の流れは目には  
見えないが、何時の日にか、本郷文化の中に  
に浸み込んで何分の彩りを添えるに違いない。  
そしてその日を強い願望で見詰めている  
のは私一人だけの独善的志向だろうか。

おわり

註

本文は背景に中村座という確乎とした  
モデルの存在するドキュメント・スト  
ーリーである。随筆の性質上、若干美  
化し、扮飾で形容した部分がある。

※前号1P上段左から十行目「種火」を「狼煙」に

2P上段左から一行目「鳥」を「鳥」に訂正  
します。

町会活動の概要

平成十四年四月～六月まで

総務部

- 4/16 定例会役員会 於 常瑞寺会館  
役員交代が有りました。  
宜しくお願ひします。
- 南部 長谷川↓山 中  
中部 益 子↓小山  
北部 小林↓高木
- 5/13 定例役員会 大観音  
四方六千日について
- 5/30 連合御輿についての会合  
町会長以下五名参加

婦人部

- 4/8 春の全国交通安全運動  
かねこ前テント
- 4/26 つつじ祭り 甘酒茶屋  
当番 婦人部十六名 役員五名
- 5/1 日赤寄付金募集  
二七六軒 Y一九七、七〇〇円  
御協力有り難う御座いました
- 5/12 駒込母の会 総会
- 5/22 婦人部総会 十六名参加

交通部

- 4/8 春の全国交通安全運動  
八日より十五日まで

街頭指導 かねこ前交差点  
十二名参加

- 4/18 コミュニティゾーン協議会  
於 千駄木小学校
- 4/26 駒込交通安全協会 理事会  
於 駒込警察署
- 5/20 駒込交通安全協会 総会

防火防災部

- 5/24 駒込防犯協会 総会  
於 地域センター

文化部

- 5/10 「蓬莱町だより」 六三号 発行配布

計報

当町会の方で平成十四年四月～六月にご逝去  
された方は左記の通りです。謹んでご冥福を  
お祈りいたします。

大西 様(七才) 2-15-1

蓬莱句壇

- 母の日や詩吟洩れくる母の家 青木 沛寿
- 母の日や母の口癖は宝 福山 七重
- 母の日や娘より小包エメール 船橋 小糸
- 夜の街母の目母の顔捨てて 森 ゆかり
- 母の日を真近に星となりし母 岡田 栄子
- 母の日や白きバラ目に悔い多し 津久井うさぎ
- 母の日や夢に呼ぶ声母の声 小野 向雪

蓬 萊 町 会  
平成 13 年度収支決算報告書

決算期間、平成 13 年 4 月 1 日から平成 14 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
勘定科目	金額	摘 要	勘定科目	金額	摘 要
前期繰越金	1,373,088	現金 161,093 預 金 1,211,995	総務部 担当	渉外費 385,405	渉外費・慶弔費
町会会費	1,656,500	町会助成金 172,228		会議費 272,066	総会・定例会・部長会
区助成金	589,488	リサイクル 265,760 区報配布 151,500		備品費他 319,815	通信連絡費・事務費 友の会助成・消耗品 他
預金利息	26,330			防火防災部費 39,607	
雑収入	67,920			防犯部費 70,793	
				文化部費 276,113	
				婦人部費 324,243	
				青年部費 12,953	
				交通部費 55,311	
				衛生部費 0	
				予備費 1,000,000	内積立金 1,000,000
				余剰金 957,020	次期へ繰越 957,020
合 計	3,713,326	今期実収入の合計 2,340,238	合 計	3,713,326	今期経費合計 1,756,306 実今期余剰金 583,932

防災積立金等残 ¥4,964,967

平成 14 年 6 月 12 日

平成 13 年度決算を上記の通り報告いたします。

平成 13 年度決算は監査の結果正確に処理されていることを証します。

町会長 三宅英三  
会計 竹中俊之  
監査 川村康明

平成 14 年度収支予算計画書 (案)

決算期間、平成 14 年 4 月 1 日から平成 15 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
勘定科目	金額	摘 要	勘定科目	金額	摘 要
前期繰越金	957,0200		総務部 担当	渉外費・慶弔費 215,000	渉外費・慶弔費
町会会費	1,400,000			会議費 250,000	総会・定例会・部長会
区助成金	550,000			事務連絡費 155,000	通信連絡費・事務費
				補助金 130,000	友の会補助金
				防火防災部費 100,000	
				防犯部費 100,000	
				文化部費 300,000	
				婦人部費 400,000	
				青年部費 30,000	
				交通部費 100,000	
				衛生部費 10,000	
				積立金 535,033	
				予備費 581,987	
合 計	2,907,020		合 計	2,907,020	

平成 14 年 6 月 12 日

平成 13 年度予算(案)を上記の通り計上いたします。

町会長 三宅英三  
会計 竹中俊之

編集後記

去る四月に全国的に天神様の千百年祭の行事が執り行われ、本郷の湯島天満宮でも四月から五月に掛けて色々な催しが賑々しく人々を集めました。我が町の根津様にも実はご祭神として菅原道真公が祭られています。江戸時代に書かれた「江戸名所図会」の中に、現在のつじじ苑のあたりに「上野尾天神」と書かれた社が見られます。この本社は琵琶湖の北の海洋と言う所に今でも「梅津天神」として多くの人に崇敬されています。なぜ、その神様が根津様に分祀されたのかと言いますと、ご存知の方も居られると思いますが、根津様の現在地は六代將軍家宣の生誕された屋敷(甲府宰相の下屋敷)で、その宮参りに神職として付き添ったのが「上野尾天神」の祇官伊吹右京で、明治初年まで代々伊吹家が社主を世襲して来ました。宝永三年(一七〇六年)千駄木村に有った(団子坂上)元根津社を現在地に引地し新に社殿を造営されてから平成十八年が丁度三百年になります。四年先のお祭りに向けて準備が開始して居る様です。

編集委員

三宅栄三 竹中俊之 常岡 裕  
青木喜一 池田 暉